

A trial report of online "Work Research Night" : A program which students and adults talk about the future from the perspective of job satisfaction

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-04-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宇賀田, 栄次 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00028166">https://doi.org/10.14945/00028166</a>

# オンラインによる「おしごと研究ナイト」実施報告

## —働きがいを観点に学生と社会人が未来を語る場—

宇賀田 栄次（静岡大学学生支援センター）

### 1. はじめに

静岡大学学生支援センター（以下、本センター）では、コロナ禍でインターンシップや教育実習への参加機会が減った学生が社会人から働くことについてリアルな情報を得ることができる機会として、オンラインでの「おしごと研究ナイト」を企画し、2020年8月から10月にかけて5回実施した。

本稿では、主催者側の視点でオンラインの利便性を踏まえたプログラムづくりを振り返り、対面機会との差を検証するとともに、学生の仕事選びの志向が働きやすさに偏重する傾向がみられるなか、働きがいを共通テーマとして掲げることで就業意識等がどのように変化したのかを整理する。

### 2. 実施のきっかけ

#### 2.1. 昨年までの対面でのトークセッション

文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC+）の取組として、本センターでは昨年度と一昨年度、「公務員とコウムインを考えるトークセッション」を実施した（運営はNPO法人ESUNEへ委託）。大学が県内外の高等教育機関や産業界と連携し、学生の県内就職率向上を目指すなか、公務員志望の学生が多様な現役公務員から話を聞くことで「安定」だけではない公務員像に気づき、それぞれのより良い進路選択につなげることを目的とし、2回の実施で学生53名、社会人62名が参加した。学生は静岡県内大学に通う学生のほか、県内高校から県外大学に進学した者もあり、社会人は、静岡市職員を中心とする有志の自主研究グループ「しずまニ」、および多様な立場の方々が未来志向で対話する場を静岡大学の学生が運営する「静大フューチャーセンター」が協力し、県内自治体および県内にある国の出先機関で働く現役公務員から参加者を募った。

このトークセッションでは、昨今学生の公務員志望者が増加する一方で、自治体職員に求められる役割が複雑化、高度化している現状を参加者全員で共有した後、小グループに分かれ、学生からの質問をもとに対話を行った。参加者が首から下げる名札にはニックネームや一言メッセージを書くことで学生と社会人との心理的距離を縮める工夫を行った。

実施後の学生アンケートでは、満足度は平均8.77点（10点満点）と高く、公務員のイメージも「安定」「固い」「ルーティンワーク」など固定的なものから、「地元への思い」「人とのつながり」「仕事のやりがい」「チームワーク」など幅広いものに変化した（図1）。

COC+事業は2019年度で終了したが、2020年度も実施を検討しているなか、コロナ禍での対面実施は難しいと判断し、オンラインでの実施を模索した。

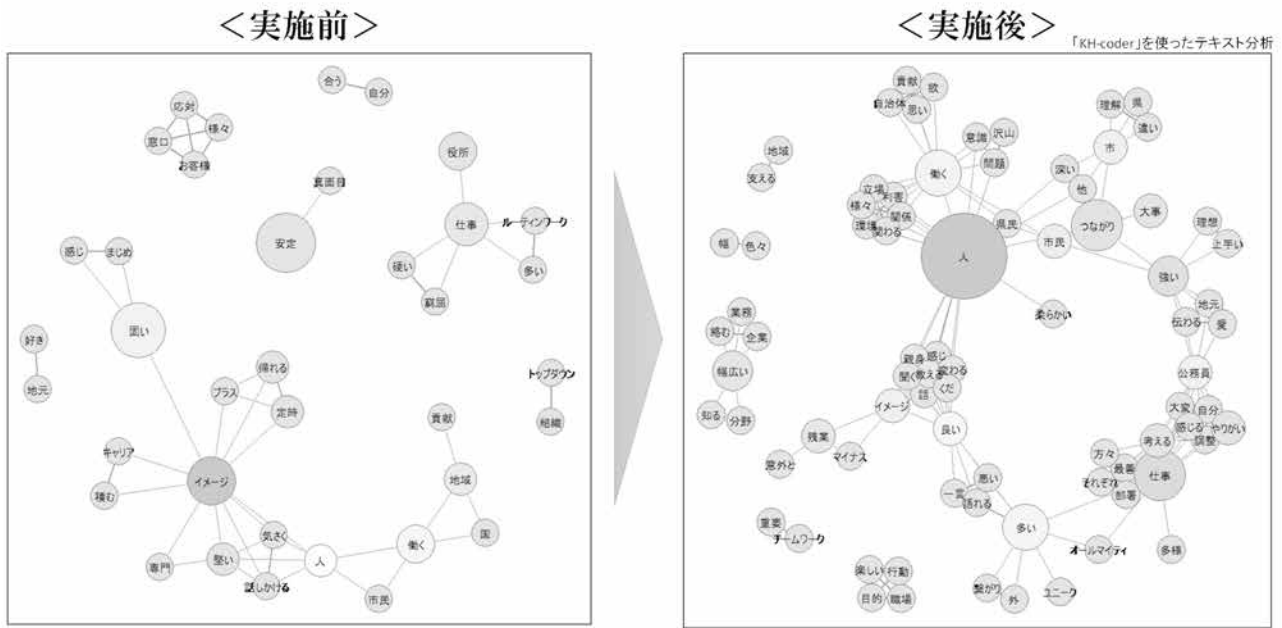


図1 「公務員とコウムインを考えるトークセッション」参加学生の公務員イメージの変化

## 2.2. 「大学3年生の声を届けよう」調査

筆者は、よそごとワガコト研究所（NPO 法人 ESUNE）と共同で、コロナ禍で学内外での対面イベントが自粛されるなか、インターンシップや就活準備に影響を受けることが予想される静岡県内在住の大学3年生を対象に、今年度5月から6月にかけてアンケート調査を行った。

近年、夏季インターンシップが採用・就職活動のきっかけとしても広がり、これまでは4月以降県内各地でインターンシップ関連イベントが開催されてきた。しかし、今年度はコロナ禍でインターンシップを含めた就活準備に漠然とした焦りや不安があるという大学3年生も少なくない一方で、県内企業では大学3年生向けのインターンシップについて実施を検討したいが、学生はどのように考えているのかわからないという声が聞かれた。そこで、大学3年生のリアルな声を集め届けることで企業等のインターンシップや各種プログラム、あるいは大学でのキャリア支援に生かしてもらいたいと考え、アンケート調査を実施した。

### ①調査方法

静岡県内に在住する大学3年生（修士1年生含む）に対して Web（Google フォーム）で調査

### ②調査期間

2020年5月22日～6月10日

### ③回答者数

170名

### ④回答者所属大学

静岡英和学院大学、静岡県立大学、静岡大学、静岡文化芸術大学、東海大学、常葉大学、浜松学院大学

アンケート結果によれば、学生の8割以上が「就活について焦りや不安が大きい」、6割以上が「就職氷河期になったらどうしよう」と回答した。また、自由記述回答119件のうち、90件で「不安」という表現がみられた。

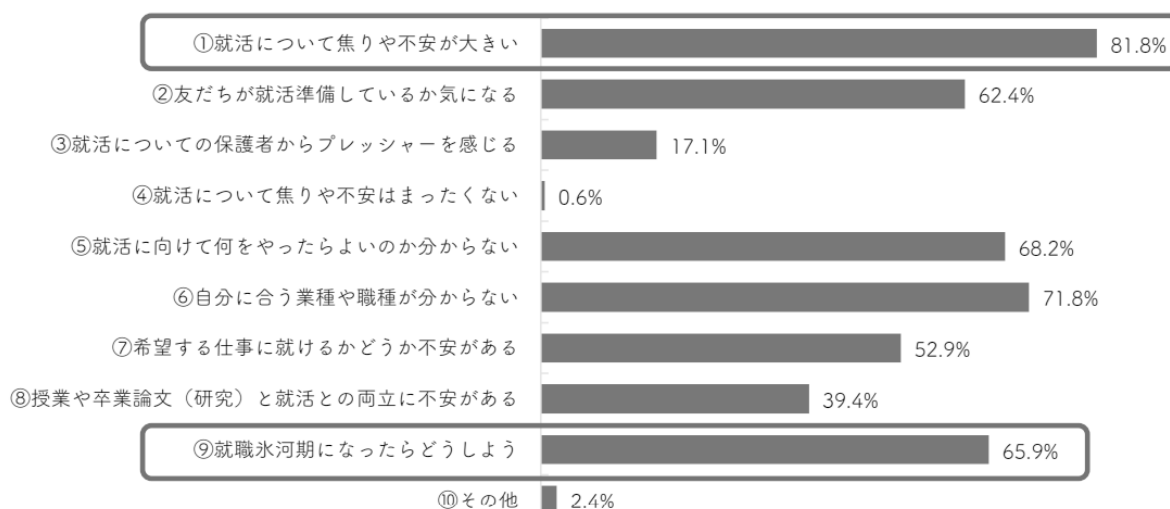


図2 就活準備で感じていること（「大学3年生の声を届けよう」報告書より）

アンケート結果をまとめた報告書では、「自らの行動こそが不安を解消する方法であり、このような状況下で自ら考え、必要な行動を起こせる学生こそ、企業が求める人材」、「企業側においても、単に学生との接点を求めるのではなく、さまざまなプログラムをきっかけに、考え行動できる学生を増やすことが今後の採用活動につながるという視点をもってほしい」と呼びかけ、以下の4点を提案した。

1. 「インターンシップ」の形式にこだわりすぎない職場理解の機会を！
2. 感染防止だけでなく学生の「移動リスク」にも配慮、工夫を！
3. 学生の目的を踏まえたプログラムやセミナーのセッティングを！
4. 「リアル」に触れながらも自分で考える機会を！

これらを踏まえた企画として「おしごと研究ナイト」の素案を計画した。

### 2.3. 学生が就職先を選ぶポイント

この数年、学生にとっては「売り手市場」といわれる求人状況が続いてきた。その背景もあり、全国調査、県内調査とも大学生が企業を決める要素として「安定」「雰囲気・社風」「福利厚生」など、どちらかといえば「働きやすさ」「居心地の良さ」を感じる企業・職場への希望が高まっている（図3、図4）。

しかし、人材の流動化が進むとともに働き方も多様化するなか、キャリアアップ志向が強い人材や理想の働き方や生き方を求める人材は、自身にとって最適な職場を求める動きが活発化している。その「最適」とは単なる快適な職場環境を表すのではなく、個人の成長を後押しする職場環境であるといわれている。つまり、組織が人材確保や定着を考えると、「働きやすさ」だけを追求するのではなく、社員個人の成長を後押しし、社員個人の成長を組織の長期的な業績向上につなげることを前提にした人事施策を考えることが重要である。そのような組織と個人との関係について昨今「エンゲージメント」という言葉で示されることが多い。

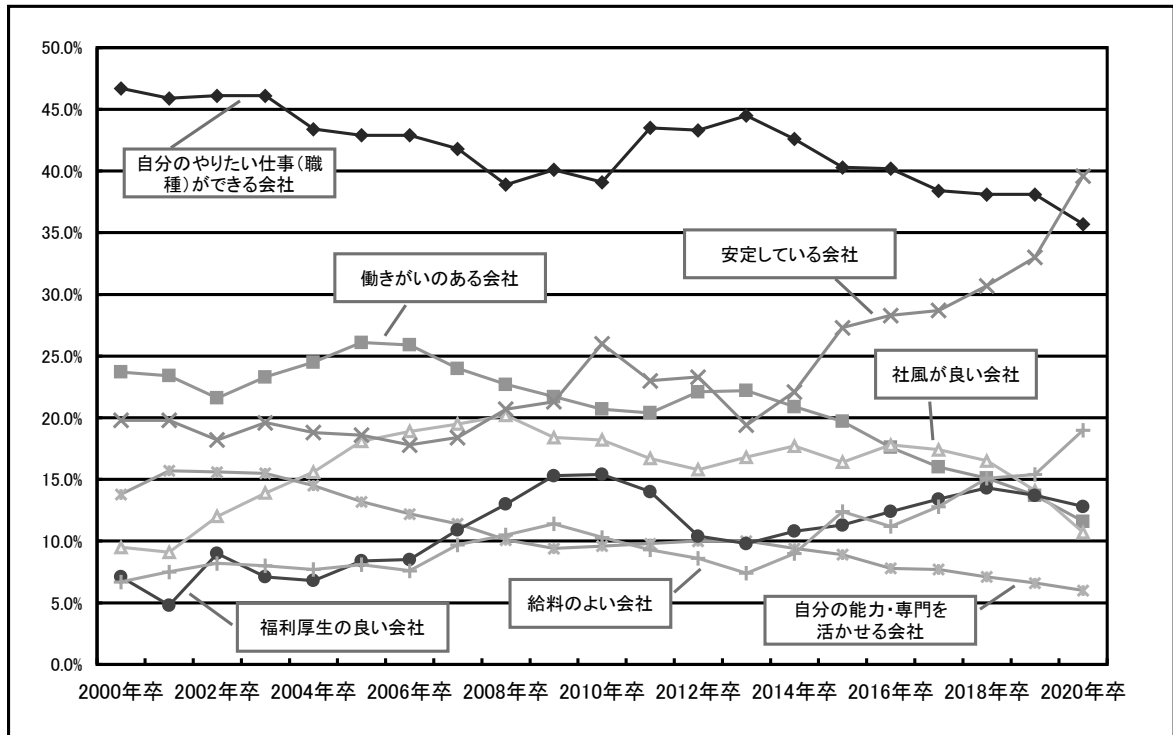


図3 就活生が考える企業選択のポイント（株式会社マイナビ『大学生就職意識調査』より）

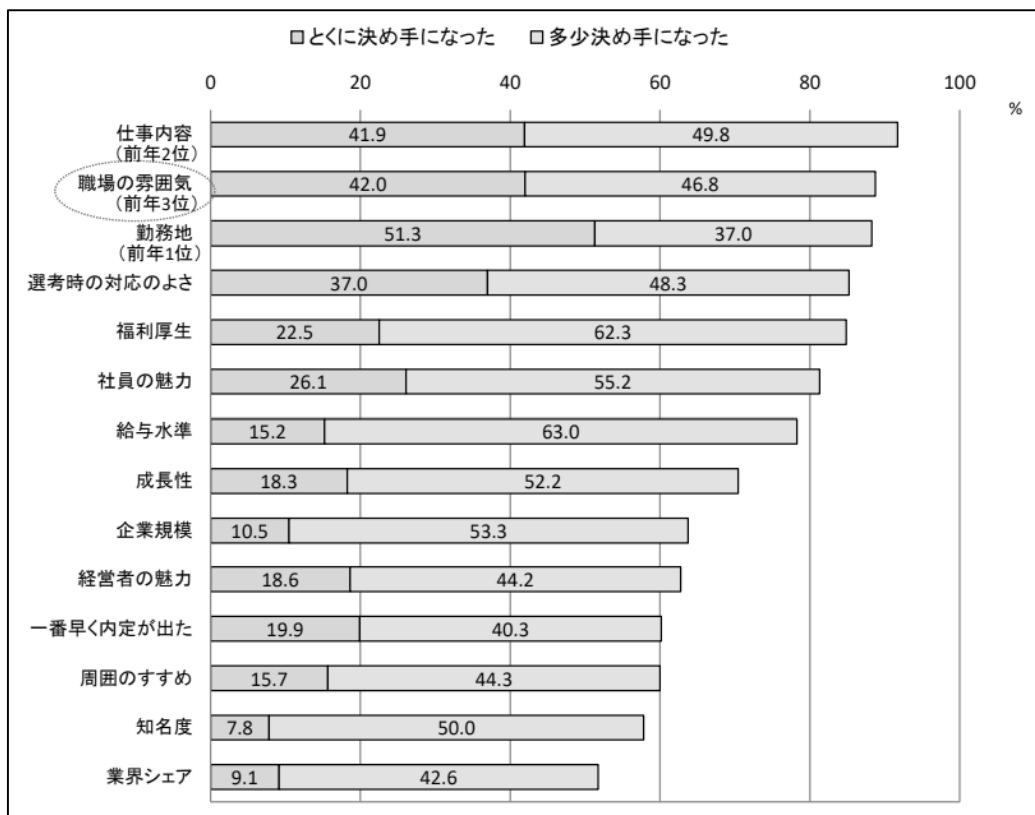


図4 就職先の決め手（しずおか産学就職連絡会『静岡県における「新卒者採用の実態調査」及び「就職活動時の実態調査」集計結果報告』より）

組織開発や社員研修に取り組む株式会社リンクアンドモチベーション(2018)は「エンゲージメント」を「企業と従業員の相互理解・相思相愛度合い」と定義したうえで、エンゲージメントが企業の「営業利益率」や「労働生産性」を高めることにつながるという研究結果を慶応義塾大学岩本研究室と共同で発表している。

さらに、2020年3月に一般社団法人日本経済団体連合会(経団連)がまとめた「Society 5.0に向けた大学教育と採用に関する考え方」においても、目指すべき2030年の企業の姿として「企業は、働き手のエンゲージメントを重視し、社員が働きがいを感じ、仕事に自発的、意欲的に取り組みながら成長できるような環境、働き方を整備している」と表現し、「エンゲージメント」を「働き手にとって、組織目標の達成と自らの成長の方向が一致し、仕事へのやりがい・働きがいを感じる中で、組織や仕事に主体的に貢献する意欲や姿勢を示す概念」と定義している。

これらのことから、学生も組織も「働きやすさ」「居心地の良さ」の先にある「働きがい」を共有しながら仕事や働くことを考えていく必要がある。加えて、「SDGs」(国連サミットで採択された持続可能な開発目標)で掲げられる17のゴールのうち雇用に関するゴール8は「働きがいも経済成長も」というタイトルがつけられている。持続可能な雇用を考えると「働きがい」は欠かせないキーワードといえる。「おしごと研究ナイト」においてもこの観点を参加者が共有することが重要と考えた。

### 3. 参加者募集と実施前の情報共有

前章の内容をきっかけとして、不安を持つ学生とその不安に寄り添うことができる社会人との交流機会をオンラインで企画し、「働きがい」を考えることの必要性を共有した上で、現状の不安を超えた未来志向で対話できる場として「おしごと研究ナイト」を実施することとした。当初は、「自治体で働く人編」と「民間企業で働く人編」を計画したが、参加学生を通じて教育実習が中止となり、進路選択に不安を持つ学生も多いことを知り、「学校教師編」を追加した。



図5 おしごと研究ナイト募集リーフレット(学校教師編 学生向け)

学生の募集は、リーフレットを静岡大学就職支援サイトに掲載するほか、筆者のSNSでも呼びかけ、また、静岡市商業労政課が運営する若者就活応援サイト「しずまっち」やNPO法人ESUNEのサイトにも掲載いただいた。また県内大学のキャリア関連部署にも送付した。一方、社会人の募集は一般公開せず、「自治体で働く人編」は「しずまニ」からの紹介、「民間企業で働く人編」は筆者およびNPO法人ESUNEからの紹介、「学校教師編」は筆者および筆者の知人の紹介を参加の条件とした。本企画の目的を理解しない社会人が参加することを避けるためである。

学生には参加申込時に「当日参加する社会人に聞いてみたいこと、あるいは進路選択や採用試験、就職活動に対して今悩んでいること」を入力することを必須とし、全員分を開催1週間前に参加する社会人にも共有した（共有時には無記名）。これは、学生がどんな不安や悩みを持って参加するのかを事前に社会人が把握して臨むことで、「社会人が話したいこと」ではなく「学生が知りたいこと」を中心とした対話を進めるねらいがあった。入力内容からは学生の率直な思いがうかがえる（表1、表2）。

表1 社会人に聞いてみたいこと、今悩んでいること（自治体・民間企業で働く人編抜粋）

大学2年生の秋頃、みなさん何をして過ごしていたのか気になります。
新型コロナウイルスの影響で採用数が減らされることに重ねて、公務員の倍率が上がるという話を聞いて不安に感じています。
(もしあれば)「仕事へのモチベーションが出ないな…」と思った時に、どうやって仕事へのモチベーションを取り戻しているか
働く上でやりがいを感じることや、学生のうちにやっておくべきことなどについて詳しくお聞きしたいと思っています。また、現在2つの職種でどちらを選択しようか悩んでいるため、進路選択をするときに何を基準に今のお仕事を選んだのかについてもお話を伺いたいです。
・いつ頃から、何がきっかけで社会人になることを現実的に考え始めたのか ・就活や将来のことについての不安やモヤモヤが漠然としすぎてます。そんなときに、「こうしてみたら、こんなことやってみたら」なことがあれば教えて欲しいです！
公務員を志望しているのですが、コロナの影響で、インターンにも行けず、どんな仕事をしているのかまだ不鮮明な部分も多いため、仕事内容や職場の雰囲気について具体的に聞いてみたい。また、その中で自分の能力が生かせる場所は企業か公務員で迷ってます。企業の方が楽しそうだけど、公務員は福利厚生が決めてです。それと、公務員も県庁とか市役所とか、場所によっての違いも知りたいです。
・今働いている自治体を選んだポイントはどこだったのか
地元就職をするか迷っている
やりがいを重視して決めたいが、何を重視して決めたいか
仕事は嫌だけど頑張って、他の時間を趣味の時間にしているか
自分の希望の職業をどのようにして明確化させたか。自分の関心があることと職業をどうやって結びつけたか。
・大学生のいつ頃から就活について本格的に考え始めたか ・大学生の間にやっておくべきこと、やった方が良いことはあるか
現職から先のキャリアパスを描いたことはありますか？(転職・副業・プロボノetc)あればその具体的な内容を教えてください。
現在、アルバイトやサークルを行っていない為就職活動の際に面接等で「勉強以外に頑張ったことは何か」と質問をされたときの回答内容を検討しています。もし学生時代にアルバイトやサークル活動が少なかった方もしくは行っていない方がいらっしゃいましたら、上記の質問等にどのように対応していたかを伺いたいです。
公務員になることの利点、向いている人、公務員試験について。院に行くべきか。
アルバイトなどで予想していたのと悪いほうに違って、がっかりしたり、辞めたいと思っても、それほど、熱心にシフトに入るわけではなかったり、学問がメインで大学を卒業するときにはバイトも辞めるから4年の辛抱だと思ってここまで3年続けてきました。しかし、社会人になったら自分の所属は会社で、人生の軸が仕事になります。だからこそ絶対に、辞めたい、辛い、苦しいと思う場面が少ない企業で気持ちよく働きたいのですが、自身の興味や向き不向きの判断等が難しく、迷走しています。採用向けではなく、本当の企業の内部を見極めるにはどうすれば良いのでしょうか？

表2 社会人に聞いてみたいこと、今悩んでいること（学校教師編抜粋）

特別支援教育に関する悩みや課題があると感じているのであれば教えていただきたいです。
教師の働き方改革について
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生の時から教員になりたいと考えていて、熱意はあるものの、教員志望の理由が教えることが好き、子どもの役に立ちたいといったようなありきたりなことしか思い浮かばないです。でも他の人と同じでは面接でリードはできないと思っています。どのように乗り越えたのか、どのようにお答えになったのか教えて頂きたいです。</li> <li>・また倍率を見るととても不安になりますが、もし落ちてしまった場合のことなど考えていましたか？それはどのようなこと私は現在養護教諭を目指しているのですが、大学での講義によってある程度の知識は得られると思うのですが、臨機応変な対応力や実践力をより確実に身に付けていくためには何が必要ですか？また、教員になってから、大学生のうちに経験しておけば良かったな、と思うことがあったら知りたいです。</li> </ul>
教師の仕事はブラックであるとよく聞くので不安。実際にどうなのか。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新任の頃に特にキツかったことはなんですか</li> <li>・学生時代と教師になってからでのギャップはどんなことがありましたか</li> </ul>
今年は教育実習に行けなくなってしまいました。教育実習に行き学んだことや変わったことをお聞きしたいです。
残業はどれくらいあるのか。
現場での働き方改革の現状を聞きたい。
キャリア教育がどのように実施されているか聞きたい
教育実習の時に、学校での業務のスピードがとても速く感じた。このスピードについていくコツなどはあるか。
教員の仕事には教科指導のほか、部活指導やその他の雑務等あると思うが、どのように時間を配分して、業務をこなしているか。
教員をやるのに向いているのはどのような人物か。（教育実習中に、私は限られた時間で臨機応変に対応するのが得意ではないため、学校現場で働くには向いていないと感じた。一方で物事の仕組みについてじっくり考えるのは好きなので、行政の教育部門などのほうが向いているのではないかと感じた。）
働いてきた中で最も嬉しかったことと、逆に最も辛かったことを聞きたいです。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に担当クラスでいじめが起きたことがあるか、起きていたらどのように対応していったか。</li> </ul>
教員になるつもりで大学に入学したのですが、いざ授業とかで教育の現場とかをみていると大変そうな気持ちが勝ってしまいました。たぶん大変そうと思われた方もいると思うのですが、それでも教員になった理由が知りたいです。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.教育実習に参加したが、「友達先生」のようになってしまった。どのように生徒と距離を取るべきか。</li> <li>2.クラス運営が大変だった。先生が指導などで気をつけていることはなんですか。</li> <li>3.研究授業で「～だから...」「大丈夫？」という問いかけは注意した方が良い(生徒の立場になって考えていない)と指摘されたが、先生方が注意している言葉はありますか。</li> </ol>
自分の教育観は正しいものだと思いますか？
教員の長時間労働の負担を減らそうという風潮の中、実際にはどのような取り組みが行われているのか(特に部活動について)
教材研究を行う時間はどれくらいとれているか
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.教員採用試験が不合格だったので、教育系の企業に就職して働きながら勉強し、再度教員採用試験を受けようと考えています。企業で働いてから教員を目指すことで勉強時間以外に採用試験で不利になったりマイナスに思われる様なことはありますか？</li> <li>2.来月に教育実習に行きます。実習校から教員採用試験の可否について聞かれたので不合格でしたと伝えました。教員から見て試験に落ちて教師ならない人は教育実習に来られると迷惑ですか？私は企業で働きながら勉強して再度教員を目指そうと考えています。実際教師の方々は日々とても忙しくされていて、ご厚意で実習を受け入れて頂いていることは承知しています。そのため私の様な考え方で教育実習に行くのは失礼なのかと考えてしまいます。現任教員の立場からご意見を聞かせて頂けたら幸いです。</li> </ol>
休日の過ごし方や体調管理の仕方
プレッシャーや忙しさに押しつぶされないか
休日は部活動の顧問や教材研究などで忙しいと思いますが、自分の時間を作ることは可能でしょうか？
また現場ではそのために働き方を変えようという動きは実際にあるのでしょうか？
<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生は朝から夜まで学校にいて自分の時間が取れないイメージがありますが実際はどうですか？。また、年齢と学校に居る時間は関係がありますか？</li> <li>・学校生活ではストレスがかかる事が多々あると思いますが、どのようにストレス発散を行っていますか？</li> </ul>



また、社会人には参加申込時に「所属先（学校教師編では学校種別と科目）」「ニックネーム」「学生へのメッセージ」を入力することを必須とし、開催1週間前に参加する学生に開示した（表3、表4）。これは当日に「話を聞いてみたい社会人」を学生が選びやすくするためのものである。

表3 所属先や学生へのメッセージ（自治体で働く人編抜粋）

名前 自治体	ニックネーム 現部局	これまでの経験部局や学生のみなさんへのメッセージ
**** ****県	ろくさん ****県立大学 (総務室)	****県庁31年生。生涯学習課、NPO推進室、西部出納室、県立美術館、文化政策課、コンソーシアム、県立大学などに勤務。ここ10年は、教育・文化系。「地域貢献は民間の方がやりやすい。その理由は？」「県と市を選ぶポイントは？」「県として仕事をつくる醍醐味は？」「異動は人が動くだけじゃない、もう1つ動く大きなものは？=これがわかると異動がキャリアになる」こんな話ができます。
**** ****市	ゆっきー 教育委員会 教育政策課	環境→庶務→保健予防→監査→企画→農林→高齢者→教育委員会(今年から)をほぼ3年ずつ(庶務7か月、保健予防1年…育休を挟んでいるため)で異動してきました。必ずしもやりたいことばかりできてきたわけではありませんが、その部署その部署で、新しいことを勉強したり、いろんな人に会ったりして、新しい可能性に挑戦できるのが公務員の面白さだと思います。よろしくお祈りします。
**** ****市	ひぐつちゃん 産業振興課	****市役所で、農林水産業・商工業の振興や移住・交流の促進を担当しています。実は、もともとは****省の職員で、****市に外向してきてるという身分です。市役所職員と国家公務員、両方の立場の経験からお話できることもあるかと思ひます。よろしくお祈りします！
**** ****市	ひろき 環境部 廃棄物対策課	2016-2020 シティプロモーション課(広報紙作成) 2020- 現所属 入庁4年目です。新卒1年目は教育系ベンチャーにいました。こしはじめて経験した異動のことや、民間との比較も話せます。基本NGないので、気軽になんでも聞いてください^^
**** ****市	りほ 農業委員会事務局	****市役所1年目の新職員です！農業委員会事務局に所属しています。1年前は、大学4年生として公務員試験を中心に就職活動を行なっていました。公務員試験は一通り受けたので、試験対策に関する不安や、数ある公務員の中で市役所を選んだ理由など、なんでも質問してください！入庁してまだ半年の未熟者ですが、入って感じたことなどもお話しできたらと思っています。

表4 所属先や学生へのメッセージ（学校教師編抜粋）

名前 学校種別	ニックネーム 教科	学生のみなさんへのメッセージ
**** 高等学校	かみむら 国語	教員3年目、24歳です。学生のみなさんと年も近いので、学校現場の実際について、腹を割ってお話できればと思います。教員1年目の忙しさや実際の仕事内容など、大学ではなかなか聞くことができない若手教員の生の声をお届けするつもりです。また、私が日々感じている教員としての働きがいをはじめ、若手教員として持つべき心構えなど、時間が許す限り多くのことをお伝えします。教員とはどんな職なのか一ぜひ一緒に探究しましょう！
**** 高等学校	クニ 数学	教師はとてもやりがいがあります。私は一生涯教育と関わりたいと強く思っています。以前は教師は教育の一つの仕事という捉え方をしていました。しかし、現在は教師は生き方であり、ミッションであると考えています。教師は日々学ぶことができ、日々発見があります。
**** 特別支援学校	けいちゃん 小学校、幼児教育、 特別支援教育	特別支援学校教諭で、肢体不自由、病院内学級、視覚支援、知肢併設校に勤務してきました。学年主任、初任研指導、自立活動、研修などの役割や、病院内学級では、通常学級(小中)、支援学級(小中)と関わってきました。このような経験の中で、私が感じたことや、学校現場の様子、初任者に向けてのお話は少しはできるかと思ひます。学生の皆さんの話を聞けることを楽しみにしています。
**** 高等学校	なかやん 家庭科	私は高校時代、教師は話すことが得意な人になるものだと思っており、人前に立つことが苦手な自分が教師になるなんて考えてもみませんでした。大学で何気なく取った教職の授業で「人に寄り添う大切さ」を学んだ時、自分も何か活躍できる場面があるかも、と思ったことが教師になる小さなきっかけです。大学生の皆さんも、たくさん悩み、探し、人に聞いたりもして、焦らずに自分なりの「小さなきっかけ」を見つけてください。
**** 中学校	はらちゃん 理科	先生を目指す学生の皆さんは、コロナウイルス等の影響により、様々な不安があると思ひます。ただ、それは児童、生徒、現場の先生も同じです。しかし、その不安は様々な人との関わりで解消していくべきであり、それが将来出会う子供たちのためになるはずで、是非、このような会での人とのつながりを大事にしなが、前向きに頑張ってください。

#### 4. 「おしごと研究ナイト」の実施

「おしごと研究ナイト」は「自治体で働く人編」を2回、「民間企業で働く人編」を1回、「学校教師編」を2回、計5回実施し（2020年11月末現在）、学生123名（延べ）、社会人57名（延べ）が参加した（表5）。学生は学部1年生から修士1年生まで幅広い学年が参加し、県外大学からの参加もあった。また、社会人も静岡県賀茂地域や県外から参加があった。移動を伴わず参加できる点はオンラインの利便性といえるだろう。

表5 「おしごと研究ナイト」実施日時と参加者数

自治体で働く人編		民間企業で働く人編	学校教師編	
8月29日(土)	9月9日(水)	9月19日(土)	9月26日(土)	10月17日(土)
19時～21時	19時～21時	19時～21時	19時～21時	19時～21時
学生13名	学生19名	学生17名	学生44名	学生30名
社会人10名	社会人17名	社会人5名	社会人15名	社会人10名

ビデオ通話アプリの「ZOOM」を使用（図6）し、参加者はログイン後、表示される名前をニックネームに変えてもらった。「公務員とコウムインを考えるトークセッション」時と同様に学生と社会人との心理的距離を縮めるねらいと学生の個人情報公開されないよう配慮をしたためである。

1回あたり120分のプログラムとし、図7のような流れで進めた。「働きやすさ」だけでなく「働きがい」にも着目して仕事を考える観点などの趣旨を全体共有した後は、ブレイクアウトセッション機能を使って小グループでの対話を重ねた。全体の進行は筆者が行い、ブレイクアウトセッションの設定や自身で小グループに移動できない参加者を移動させるフォローはNPO法人ESUNEのスタッフに担当してもらった。

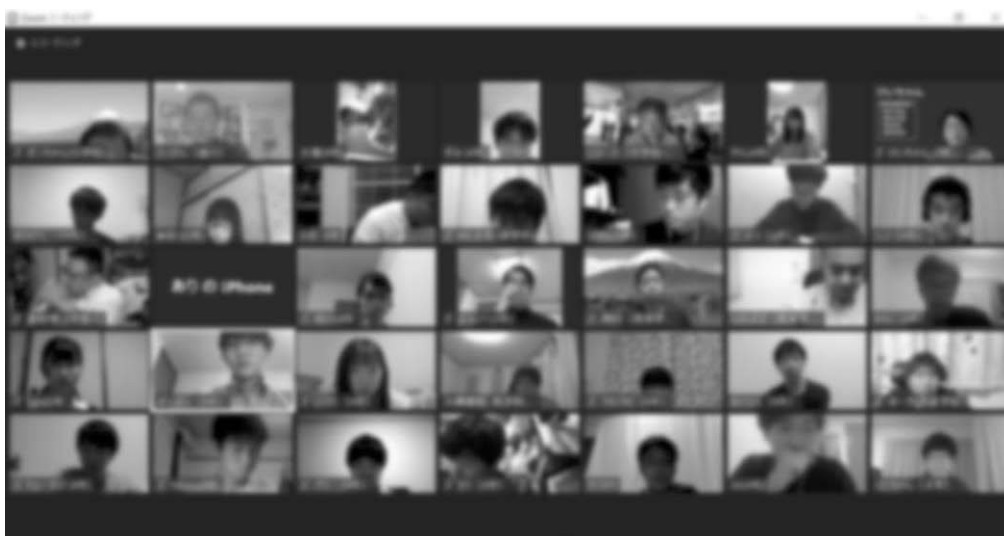


図6 おしごと研究ナイト ZOOM画面

おしごと研究ナイト 本日の流れ

前半  
60分

メインフロアでオープニング・趣旨説明（8分）  
以降4回のブレイクアウトセッション（小部屋に分かれて意見交換）  
1回目セッション（12分 社会人1名+学生2-3名で自己紹介&対話）  
メインフロアに戻り、社会人自己紹介（お一人あたり「30秒！」）  
2回目セッション（15分 話を聞きたい社会人のセッションへ学生移動）

休憩+テーマ募集（10分 後半の話したいテーマを募集）

後半  
50分

テーマ発表・セッション準備  
3回目セッション（15分 希望テーマのセッションへ全員自由移動）  
4回目セッション（15分 希望テーマのセッションへ全員自由移動）  
全体共有

図7 おしごと研究ナイト 各回の進行

前半の小グループでの対話はテーマを決めず、主に学生からの質問に社会人が答える形式で行い、後半までの間の休憩時に、後半のセッションで話したいテーマを参加者から募った（表6）。学生からのテーマを優先したが、「学生らしい」率直な疑問や質問が多く出され、対面では発言を躊躇する学生も、ニックネームでの参加による匿名性やチャットへの書き込みという心理的負担の低さによって発言しやすい状況があったと想像できる。

表6 参加者から募った後半のセッションテーマ

＜8月29日 自治体で働く人編＞	＜9月26日 学校教師編＞
①学生時代にやった方がいいことは？	①教員、公務員、民間の選び方。一度民間などで働いて、30代、40代からの教員はありか。進路を決めた決め手
②なぜ公務員に興味を持った？なりたいたと思った？	②時間のマネジメント、教員と私生活の両立は可能か
③働いてみてギャップを感じたことはなんですか？	③不登校児への対策として、地域の施設との連携について、学校に行きづらい子への対応方法、外部との連携
④やりがいを感じるのはどのようなときですか？大変だと思うことは？	④人は何のために生きるのか
⑤公務員のリアル（残業、休暇の取得、お給料などなど）とは？	⑤ICTの導入はされていますか。どのように進めていますか。
⑥今の自治体を選んだ動機は？	⑥生徒の様子に関する保護者への対応について
⑦公務員として働く上で、今も働き続けているのはなぜ？	⑦講師の常勤、非常勤について
⑧どんな人が公務員に向いている？	⑧小学校教員になる不安と希望
⑨社会人になる上、職業選択で一番求めるものは？	⑨学習指導案の書き方、教材研究に費やす時間について
⑩働き方、職場の雰囲気について聞いてみたいです。	⑩教員志望の動機、教員採用試験の面接について
⑪部署で教育関係を経験した方（子育てや生涯学習など）の経験や働きがい	

## 5. 実施効果

実施前後のアンケートから学生への効果を検証する。まず、参加した満足度を10点満点として回答してもらったところ、「自治体で働く人編」と「民間企業で働く人編」に参加した学生の平均は9.06点、「学校教師編」に参加した学生の平均は8.53点であった（表7）。いずれも高い満足度を表しており、昨年までの対面での「公務員と公務員とコウムインを考えるトークセッション」の8.77点と比べても大きな差はないことが分かった。

表7 参加後の学生の満足度

自治体で働く人編		民間企業で働く人編	学校教師編	
8月29日(土)	9月9日(水)	9月19日(土)	9月26日(土)	10月17日(土)
参加学生数49名(延べ)			参加学生数74名(延べ)	
事後アンケート回答数29名			事後アンケート回答数64名	
学生満足度 平均9.06点(10点満点)			学生満足度 平均8.53点(10点満点)	
最低点4点、中央値10点			最低点5点、中央値9点	

表8 「インターンシップの5つの効果」をもとにした10項目の質問

	1	2	3	4	5
キャリアの焦点化①	特定の業界や職種などへの関心はまったくない	1と3の間	関心のある業界や職種は挙げられるが、理由は明確ではない	3と5の間	希望の業界・職種やその理由を明確に話すことができる
キャリアの焦点化②	お金を得ること以外の働く目的や目標はまったくない	1と3の間	理想の社会人像はなんとなくイメージできる	3と5の間	社会に出て達成したい目標やビジョンを説明できる
キャリアの展望化①	卒業後のことを考える機会を自ら求めたことはない	1と3の間	卒業後の進路につながる機会がないか、探したことはある	3と5の間	積極的に卒業後の多様な選択肢を見つける行動をしている
キャリアの展望化②	社会に必要な能力や意識の向上に関心はない	1と3の間	社会に必要な能力や意識に関心はあるが、行動はしていない	3と5の間	社会に必要な能力や意識の向上に向けた努力を常にしている
人的ネットワークの認知①	家族以外で進路について相談できる社会人はいない	1と3の間	家族以外で進路について相談できる社会人は1人いる	3と5の間	家族以外で進路について相談できる社会人が5人以上いる
人的ネットワークの認知②	「人脈を広げる」ことに関心はまったくない	1と3の間	「人脈を広げる・使う」重要性について頭では分かる	3と5の間	「人脈を広げる・使う」重要性は身をもって理解している
就労意欲①	卒業後に働くことへの不安が大きく、できれば働きたくない	1と3の間	働くことへの不安はあるが、就職だけはしたい	3と5の間	卒業後に働くことが楽しみで仕方ない
就労意欲②	就職活動への不安が大きく、できればやりたくない	1と3の間	就職活動への不安はあるが、何とかなるだろう	3と5の間	就職活動を通じた出会いや自分の成長が楽しみだ
自己理解①	自分の強みはまったく言えない	1と3の間	何となく自分の強みと言えるものは話せる	3と5の間	複数の自分の強みをエピソードとともに説明できる
自己理解②	自分の弱みや短所はうまく説明できない	1と3の間	自分の弱みや短所はエピソードとともに説明できる	3と5の間	自分の弱みや短所は理解し、カバーする努力をしている

また、学生には実施前と実施後に表8に示す10項目の質問に自身の現状を回答してもらった。これは、株式会社マイナビと法政大学の産学連携調査プロジェクトが開発した「インターンシップ5つの効果」をもとに筆者が具体的質問に展開したものである。同プロジェクトメンバーの1人である初見(2019)によれば「インターンシップ5つの効果」とは、「キャリアの焦点化」(将来のキャリアについて、関心が絞られ明確化した状態)、「キャリアの展望化」(将来のキャリアについて、多様な選択肢・可能性を見出している状態)、「人的ネットワークの認知」(就職活動を進める上で、周囲の人々や施設・機会の有効性を認識している状態)、「就労意欲」(仕事・働くことへの意欲が増している状態)、「自己理解」(自分の長所・短所への理解が深まった状態)で構成される。

これらは、原則として対面での体験学習機会であるインターンシップとオンラインでの「おしごと研究ナイト」について効果の違いがあるかどうか、またどのような意識に変化がみられるのかを確かめることを目的とした。実施前後の回答変化をまとめたものが表9であるが、10項目中8項目で実施前後の回答に有意差がみられた。つまり、体験学習機会であるインターンシップと変わらない程度の効果があり、特に「人的ネットワークの認知」「就労意欲」「自己理解」に変化がみられた。

表9 10項目の質問に対する実施前後の回答変化

		平均	標準偏差	p値	
キャリアの焦点化①	実施前	3.674	1.100	0.599	
	実施後	3.733	1.056		
キャリアの焦点化②	実施前	3.035	0.951	0.002	*
	実施後	3.337	0.941		
キャリアの展望化①	実施前	3.558	1.024	0.150	
	実施後	3.721	1.002		
キャリアの展望化②	実施前	3.360	0.853	<0.0001	**
	実施後	3.779	0.758		
人的ネットワークの認知①	実施前	2.640	1.197	<0.0001	**
	実施後	3.244	1.157		
人的ネットワークの認知②	実施前	3.686	1.066	0.001	**
	実施後	4.058	0.938		
就労意欲①	実施前	3.267	0.926	<0.0001	**
	実施後	3.709	0.824		
就労意欲②	実施前	3.209	0.947	0.001	**
	実施後	3.616	1.097		
自己理解①	実施前	2.837	1.206	<0.0001	**
	実施後	3.326	1.142		
自己理解②	実施前	2.872	1.082	<0.0001	**
	実施後	3.430	1.174		

\* p<0.05 \*p<0.01

学生には実施後アンケートで「参加前と参加後に印象が変わったことや参加後の気づきや学び」についても自由記述で回答してもらった。回答内容を分類してみると、「不安が解消できた」「イメージが変わった」「働く面白さ、やりがいに気づいた」「働く上での大切なことを理解できた」「自分への自信がついた」の5つに分けることができた。

表 10 実施前後で印象が変わったことや参加後の気づきや学び（抜粋）

不安が解消できた	<ul style="list-style-type: none"> <li>•実際の教職現場について色々質問できる貴重な機会、特別支援教育の実態や保護者対応、教採の面接、時間の使い方など様々な不安や疑問点を解消できた(学校教師編)</li> <li>•今回で教員の社会における役割、未来を作る人を養う大事な仕事ということを再認識しました(学校教師編)</li> <li>•生徒と接することへの戸惑いが少し減った(学校教師編)</li> <li>•教員の方々が仕事の中で傷ついたり、自分が教師に向いているのか悩んだりしていることがわかって、少しほっとした(学校教師編)</li> </ul>
イメージが変わった	<ul style="list-style-type: none"> <li>•各々部署や日々の業務は違えど、その自治体・住民の方々のことをいちばんに考えているという点では同じ方向を向いて働いていらっしゃる事が分かりました(自治体で働く人編)</li> <li>•公務員と一言で言っても、市、県、国でやりがいや規模が変わるのだと分かった。公務員は窮屈な仕事というイメージもあったが、個人の意見を求められることや、楽しそうに働いている人が多いと感じた(自治体で働く人編)</li> <li>•教員はブラックという印象がありましたが、働き方を工夫すれば私生活との両立ができるという話を聞いて、印象が変わりました(学校教師編)</li> <li>•教員の方は常に明るく自信を持っているイメージでしたが、教員の方にも自分が教員に向いてないと思っている人がいたり、つらく悩む時期があったり、様々な思いを持ちながら仕事をしていることが知れてよかったです(学校教師編)</li> </ul>
働く面白さ、やりがいに気づいた	<ul style="list-style-type: none"> <li>•縛りがあったり数年で場所が変わってしまう印象が強かったのが、場所が変わるからこそ面白いことや経験を積めるということを知り、印象がガラッと変わった(自治体で働く人編)</li> <li>•多様な分野に関わることができ、地域に密着して社会に貢献できる、やりがいのある仕事だと思いました。自分次第でできるだけ柔軟に仕事ができると分かったことは収穫でした(自治体で働く人員編)</li> <li>•教師という仕事のネガティブな部分ばかりをきいて不安だったが、自分なりに工夫したりできるやりがいのある仕事だと分かった(学校教師編)</li> <li>•教育現場には大変なことがたくさんあるようでした。しかし、どの先生方も教師という仕事にやりがいを感じていられるのがよく伝わってきました。この会に参加してより早く現場で働きたいと思いました(学校教師編)</li> </ul>
働く上での大切なことを理解できた	<ul style="list-style-type: none"> <li>•働く上では人間関係が非常に重要であることを学びました。(民間企業で働く人編)</li> <li>•教員の仕事はただガムシヤラに頑張るのではなく、しっかりと自分の予定をマネジメントして私生活と仕事を両立させることが大切。そうすることで生徒に良い社会人としての姿も見せられる(学校教師編)</li> <li>•生徒とともに成長していくのが先生、いっぱい悩むことがあるけれど、悩めるほどいい(学校教師編)</li> <li>•学校内で自己完結するのではなく、学校外へ出ていくことで自分の枠を広げること。それが生徒の可能性や選択肢を広げる・深めるキャリア教育へとつながる(学校教師編)</li> </ul>
自分への自信がついた	<ul style="list-style-type: none"> <li>•初めて社会人の方とzoomで話をし、自分に自信が持てたことが一番でした。何もできないんじゃないか、自分は教員に向いていないんじゃないかと落ち込んでいたけれど、これからまだまだ機会はたくさんあって、自分から積極的に外の世界と関わっていくことができるということを学んで頑張ろうと思えました(学校教師編)</li> <li>•学生時代に、何かすごいことを成し遂げだ経験がなければいけないと思いついてきたが、今回の活動を通して、どんな経験であってもその経験が仕事において役立つということが分かった。また、いろんなコミュニティに積極的に参加してみようという気持ちになった(自治体で働く人編)</li> <li>•もちろん教科のスキルや知識は大切だけど、それが極端に秀でていなくても、生徒に「向き合いたい」「寄り添いたい」という本当の気持ちがあるのなら、教員になっていいのだと実感して自信が出た(学校教師編)</li> <li>•先生方に素晴らしいと言っていたことによって、自らの考えが評価を受けるようなものであることを確認でき、自信になった(学校教師編)</li> </ul>

## 6. おわりに

コロナ禍で学生の就職活動や進路選択に対する不安は高まるなか、オンラインでの「おしごと研究ナイト」は学生にとって対面での対話機会や体験学習機会にも劣らない効果があったといえる。また、参加後の気づきや学びの言葉からは、「働きがい」を観点とした全体共有を前提とすることで目の前の「働きやすさ」だけでなく、「働く面白さややりがい」「自分への自信」など未来を見据えた長期的視野での就業意識を醸成できたものと考えられる。

ニックネームによる参加やチャットでのテーマの発言など匿名性や心理的負担の低下からオンラインでの実施は対面以上に主体的に参加できる機会かもしれない。しかし、一般的にはオンラインでの対話は対面よりもタイミングが取りづらく、個人がより良いコミュニケーションが図られたかどうか細かな検証はできていない。さらに、参加した社会人の多くからは「自分の振り返り機会にもなった」と感想をいただいたが十分な検証ができていない。今後もオンラインを1つの方法として学生と社会人が語る場を企画するとともに、新しい効果尺度も取り入れ、学生と社会人が「学び合う」機会としての効果も検証したい。

## 謝辞

「おしごと研究ナイト」実施にあたっては、静岡市自主研究グループ「しずまニ」の方々、NPO 法人 ESUNE のスタッフに多大な協力をいただいた。この場を借りて御礼申し上げる。

## 参考文献

一般社団法人日本経済団体連合会

2020 「Society 5.0 に向けた大学教育と採用に関する考え方」(<https://www.keidanren.or.jp/policy/2020/028.html>, 2020年11月21日)。

宇賀田栄次・よそごとワガコト研究所 (NPO 法人 ESUNE)

2020 『『大学3年生の声を届けよう』調査プロジェクト アンケート結果報告書—静岡県内学生170名の声から—』(<https://drive.google.com/file/d/1YvbpHK-vD7m57BVUxv81GYrLXN2k4dgh/view>, 2020年11月21日)。

株式会社マイナビ

2020 「大学生就職意識調査」(<https://saponet.mynavi.jp/release/student/#category-ishiki>, 2020年11月21日)。

株式会社リンクアンドモチベーション

2018 「エンゲージメントと企業業績」(<https://www.lmi.ne.jp/about/me/finding/filedownload.php?name=09540c9c7dc93e02dba4e085670faf8f.pdf>, 2020年11月21日)。

しずおか産学就職連絡会

2020 「静岡県における『新卒者採用の実態調査』及び『就職活動時の実態調査』集計結果報告」(<https://www.shushokuzaidan.or.jp/assets/files/sin202006.pdf>, 2020年11月21日)。

初見康行

2019 「企業にとってのインターンシップ効果とは？—インターンシップと志望度の関係」株式会社マイナビ『2019年度新卒採用・就職戦線総括』、6-7。